



一昭和大学歯科病院の理念一

患者本位の医療  
先進的医療の推進  
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎  
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)  
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## 国民皆歯科健診について

口腔機能リハビリテーション科 診療科長補佐・准教授 伊原 良明

10月に入り、先月までの残暑から急に秋の気候となりました。今年は先日開催されたバスケットボールのワールドカップ、現在行われているラグビーのワールドカップなど、さまざまなスポーツの大会が行われ、テレビ、現地などでスポーツ観戦をされた方も多いかと思います。

さて、昨年日本政府は「経済財政運営と改革の基本方針2022」にて国民の歯科健診を義務化する「国民皆歯科健診」制度の導入を検討することを明記しました。今年6月の「経済財政運営と改革の基本方針2023（骨太方針2023）」にも同様の記載がされており、我々歯科医療者にとっては大きな影響をもつトピックでした。この「骨太方針2023」では「リハビリテーション、栄養管理および口腔管理の連携を図る」や「オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実」などと記載されています。

これは、私どもの診療科の専門である口腔機能に関わる分野はもちろん、歯科全体として健診というものの形、考え方を変え

ていく必要があると思います。これまで行われていた歯科健診というのは1歳6か月健診、3歳健診、小学生～高校生で行われる学校健診などが主でした。



国民皆歯科健診の詳細な内容は未だわかっておりませんが、生涯を通じた歯科健診から、これまで以上に「口腔の健康」が大切になると考えられます。歯科健診というといわゆるむし歯や歯周病の検査を想像される方が多いかと思いますが、日本人の約30%が65歳以上の高齢者である日本において、歯の状態だけではなく、これからは「話す」、「食べる」といった口の機能に関する健康にも是非注目していただければと思います。

私達は皆様がお口の健康寿命を伸ばし、周囲の人と話すことができ、好きなものを食べ、生活の質（QOL）を高く保つために少しでもお力になれるよう努めて参りますので、お口の機能で気になることがあればいつでもご相談いただければと思います。



- P1 巻頭言 国民皆歯科健診について
- P2 診療科紹介 口腔機能リハビリテーション科
- P3 新入職員ご挨拶
- P4 部署紹介 事務課医事係、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

## 診療科紹介：口腔機能リハビリテーション科

口腔機能リハビリテーション科 診療科長補佐・准教授 伊原 良明

私たち口腔機能リハビリテーション科は、お口の主な機能である「食べること」、「話すこと」に対しての治療や訓練、装置の作製などを行っております。また、睡眠歯科センターにも参加しており、医科病院と連携し、睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置の作製を行っております。

全身疾患などにより通院が難しくなった患者さんに対しては、地域の歯科医院と連携し飲み込みの部分を私どもの診療科で担当させていただくこともあります。言語治療では2名の言語聴覚士が在籍しており、歯科医師と言語聴覚士が一つのチームとして患者さんの診療を担当させていただき、お口の筋力が弱いなど筋機能訓練（MFT）が必要な患者さんに対しては歯科衛生士と協力し、診療を担当させていただくこともあります。

当科の特色として、口腔がんの治療後に生じたさまざまな問題を抱えている患者さんの診療が非常に多いことがあげられます。昭和大学内のみではなく、他の総合病院やがん専門機関からも患者さんをご紹介いただき、がんの治療後に生じた問題に対して、さまざまな訓練や装置の作製など患者さんの障害が少

しでも軽減するよう診療を行わせていただいております。

通院が困難で飲み込みの障害をお持ちの方にはご自宅や施設に訪問診療を行い、飲み込みの検査やミールラウンドと呼ばれる食事の観察もご家族や他職種の方と協力して行っております。

当科の診療では医療職のみではなく、患者さんご本人、ご家族、介助者など周囲の方にご協力をいただき診療を進めることが非常に多いです。そのため、ご自身の飲み込みやお話の機能だけではなく、ご家族など周囲の方でもお困りの方がいらっしゃいましたら、是非一度ご相談いただければと思います。



特別養護老人ホームにおけるミールラウンドの様子



口腔機能リハビリテーション科スタッフ

## 新入職員ご挨拶

本年4月より美容歯科に助教（歯科）として入職いたしました、國司麻莉と申します。

私は昭和大学を卒業後、聖マリアンナ医科大学川崎市立多摩病院歯科口腔外科にて研修医を行い現在に至ります。

美容歯科では審美的な主訴をお持ちの患者さんが来院されますが、「歯を白くしたい」という一つの主訴に対しても、ホワイトニング、ダイレクトボンディング、ラミネートベニアなどアプローチの方法は多様です。

患者さん一人ひとりの症例に対し医学的根拠を持って治療が行えるよう、日々精進してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

美容歯科 助教（歯科） 國司 麻莉

本年4月より補綴歯科に助教（歯科）として入職いたしました、山下由紀野と申します。

昭和大学歯学部を卒業後、当昭和大学歯科病院にて1年間の臨床研修をさせていただいておりました。

補綴歯科は入れ歯や被せ物を専門とした診療科であり、さまざまな理由でかみ合わせを失ってしまった方々が、日々のご飯をより美味しく食べられるお手伝いが出来たらと思っています。至らぬ点多々あるとは存じますが、より良い治療をお届けできるよう精進していく所存ですので、何卒よろしくお願いいたします。

補綴歯科 助教（歯科） 山下 由紀野

本年4月より矯正歯科に助教（歯科）として入職いたしました、松田彩です。

私は昭和大学を卒業し、歯科医師国家試験に合格後、当院にて臨床研修を行いました。学生時代にマダガスカルでの医療協力に参加し、口唇口蓋裂の治療に立ち会わせていただいていた機会がありました。治療前にとっても不安そうにしていた患者さんから笑顔が見られたときとてもうれしく感じ、将来私も患者さんに喜んでもらえるようお手伝いしたい、と強く思いました。患者さんのかみ合わせを改善することで、少しでも笑顔になれるようになっていただきたいと考えております。

矯正歯科 助教（歯科） 松田 彩

本年4月より障がい者歯科に入職いたしました、佐藤ゆり絵と申します。

当科は歯科診療に対し特別な配慮が必要な方々の歯や口の総合的な診療科です。治療内容は、さまざまな治療を幅広く行っておりますが、特に予防治療に力を入れています。障がいを持つ方の治療は、ご本人の負担も大きく、なるべくむし歯を作らず、歯を残していくことを念頭に置き、口腔内の管理を行っています。

治療後の患者さんの笑顔に元気づけられながら、私も患者さんを笑顔にできる歯科医師を目指して、日々精進してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

障がい者歯科 助教（歯科） 佐藤 ゆり絵



## 部署紹介：事務課医事係

事務課医事係 係長 村木 大佑

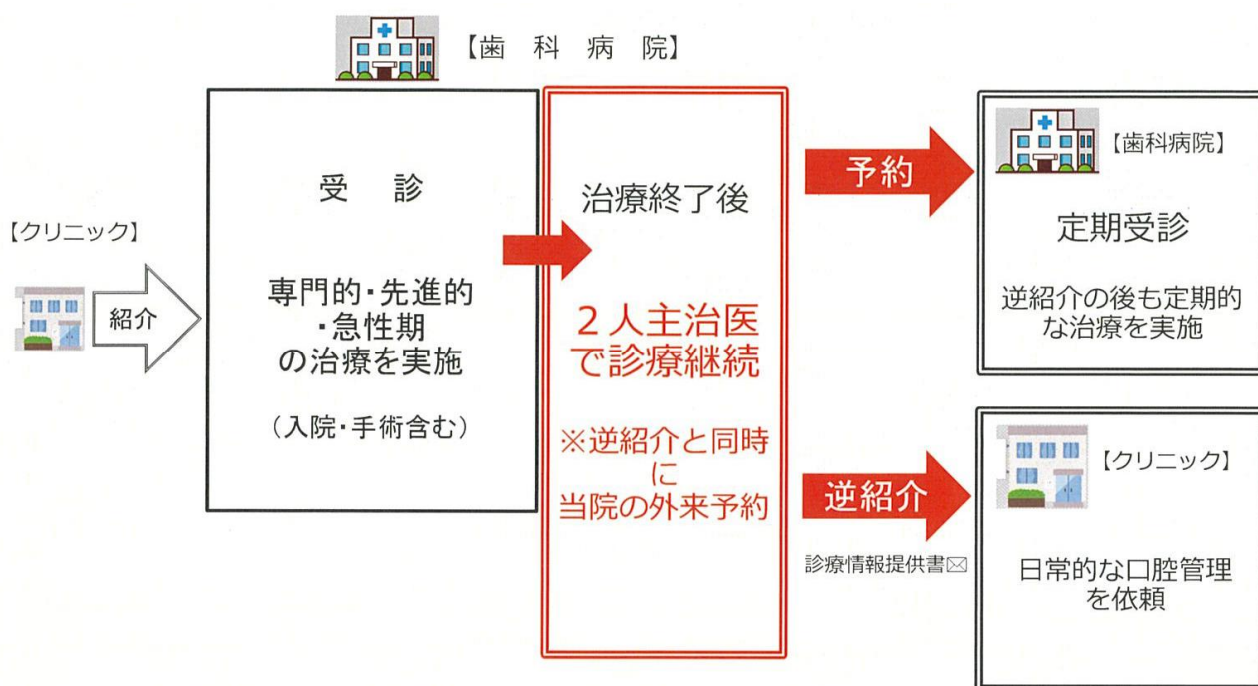
事務課医事係の主な業務は、初診・再診患者さんの受付、診療録管理、医療費の請求に関する業務、患者相談業務および地域医療連携業務などです。患者さんがより快適に通院できるよう日々、医事係員一丸となって対応するよう心がけています。

昨年度より地域医療連携の取り組みとして昭和大学歯科病院では、「二人主治医制」を推進しています。

「二人主治医制」とは、患者さん一人に対し、当院の医師と地域の「かかりつけ医」が互いに連携しながら共同で継続的に治療することです。患者さんは、かかりつけ医に日常

的な口腔管理について相談、その後、専門的・先進的な治療や検査が必要とされた場合には、かかりつけ医の紹介状を持って当院に受診し、治療や状態が安定されましたら当院よりかかりつけ医に逆紹介をして、日常的な口腔管理を継続します。

紹介状により主治医同士が情報を共有でき、どちらに受診しても適切な治療を受けることが可能です。当院と地域医療機関とのそれぞれの診療分担を明確にして協力体制のもと患者さんの口腔管理をし、安心して住み慣れた地域で医療を受けられるような地域医療連携を推進しています。



## 編集後記

10月も下旬に入りまして秋の風が心地よく感じる季節となつてまいりました。

ついこの間まで蒸し暑い日が続き、半袖で外出していたところ慌てて長袖や羽織ものを筆筒の奥から引っ張り出さなければならなくなり、気候の差がとても激しいと肌で感じます。

皆様体調など崩されないよう、お体もお口の中もご自愛ください。 (A.N)

